

こんにちは

会社訪問記

地域から地球へ——地球クリーニング。
廃棄物ゼロを目指して全力で取り組んでいます。

株式会社平沼建設工業

(名古屋市中村区)

建設廃材を中心に、産業廃棄物の収集運搬・中間処理を行っている株式会社平沼建設工業。今回のインタビューは、海部郡弥富町にある弥富クリーンセンターにお伺いし、平沼社長に事業に携わる基本姿勢、事業内容等をお聞きしました。



平沼社長

——まず最初に産業廃棄物処理に携われたきっかけを教えてください。

平沼社長（以下平沼に略）『当社はもともと解体業を行ってまして、解体時に出る廃棄物の処理をどうするか、ということからこの業種に参入したのが始まりです。』

——こちらの弥富クリーンセンターでは何を行っていますか。

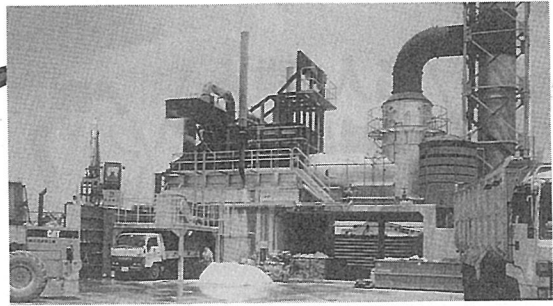
平沼『廃プラ、木くず、紙くず、金属くず、建設廃材やボード類の選別、積替え、保管、焼却を行っています。ここに入ってくる産業廃棄物は焼却されるもの、リサイクルに回されるもの等に選別されます。入ってきた廃棄物は必ずその日のうちに片づけ、リサイクル率を高め、100%適正処理ができるように最大限の努力をしています。』

——こちら以外にもこのような施設がありますか。

平沼『残土と汚泥を保管する蟹江クリーンセンターと祖父江町にコンテナ等を保管するストックヤードがあります。』

——では話題を変えて、産業廃棄物処理に対する基本的な考え方を教えてください。

平沼『当社は“地域から地球へ——地球クリーニング”を経営理念としています。非常に大きな理念ですが、この実現に向けて何ができるか。地域にとって、地球にとって本当によいことは何か常に考え、産業廃棄物処理に取り組むことと、地域住民の方々

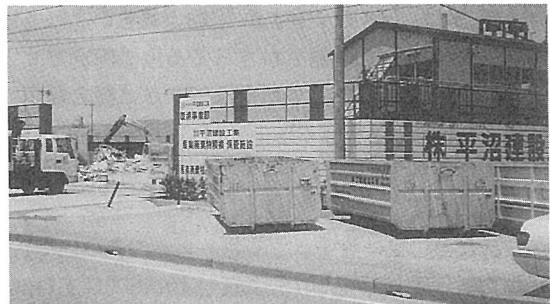


弥富クリーンセンター内

のご理解を得ることが適正処理への近道であるというのが私の考えです。その中でも特に、地域住民の方々とよく話し合い、私たちが行っている産業廃棄物処理業をわかっていただくためコミュニケーションを密にし、地域に利益を還元していくことがこの業の発展にとって一番大切だと思います。平沼建設工業はいい施設をつくって適正処理を行う、廃棄物をゼロにする中間処理業者だと皆様からいただけるように、頑張ることが基本姿勢ですね。』

——最後に現在取り組まれていること、今後の事業展望をお聞かせいただけますか。

平沼『まず、弥富クリーンセンターに破砕機及びベルトコンベアーを導入し機械化を推し進める予定です。当社の産業廃棄物処理に対する姿勢を地域住民の方々につぶさに見ていただき、ご理解を得た結果、公害防止協定の締結もでき、この9月に建築基準法第51条の申請を出す計画になっています。また、メーカーと提携して石膏ボードのリサイクルもはじめます。さらに、重金属処理関係の薬も3年間の研究を経て開発できましたので、いま認可を得て製造に入ります。これら事業が動きはじめれば、いままでの業態とは異なってくるかもしれませんね。』



社名/株式会社平沼建設工業 所在地/名古屋市中村区畑江通2-26
代表者/平沼辰雄 創業/昭和39年 従業員/21名 車両/12両
TEL/052(471)2880
事業所/本社、弥富クリーンセンター、蟹江クリーンセンター
営業種別/収集運搬、中間処理 取扱い品目/廃プラスチック類、木くず、コムくず、金属くず、ガラスくず及び陶磁器くず、建設廃材